



九十九里浜の海岸線は弓型に連なり遠く飯岡まで見える(岬現場)



独自に製作した金物を真剣にみる(岬現場)

寒さも緩んできました。この冬は寒さが厳しくて正直な気持ち、冬というのはこんなに寒かったのかと実感しました。

今月は、工事の施工方法で悩み、試行錯誤を繰り返していきづまったときにある職人さんがに相談したところ、発想の違う抜群のアイデアとそれを実現する地道な作業で見事にこの問題をクリアしてくれました。笑いながら、徹夜で二晩かかったというのはウソではなさそうです。その方が、現場に向かう途中、私にこんなセリフをいいました。

「職人がやりやすいようについたら、いいものはできない。管理者は職人の最高の技術を引き出そうとしなければいいものはできないよ。芸術というのはそういうものだ。」

その言葉を見事に実現してくれた形です。

たくさんの職人さんとお付き合いの中で、名セリフがあります。「お客さんとの関係は恋愛と同じだね。」熱いそのセリフ、その奥深く端的な表現にビックリしました。どんな家を建てたいのか、ふさわしいパートナーは誰なのか、依頼する側と依頼される側が相思相愛になったときに、本当にいい家ができるという意味です。そこにあるのは施主さんと請負者の揺るぎない信頼関係といえます。

家づくりに大切なもの、それは性能や仕様に基づく比較よりももっと前にあるような気がします。どんな家に住みたいのか、それを実現できるパートナーは誰なのか。そこに信頼関係、そして完成後も漂うつくりあげるまでに込めた思い。家づくりに思いがあるという感覚にご賛同いただければ幸いです。

今月は屋根についてご説明したいと思えます。素材での分類と、形とデザインでの分類があります。

現在使われている屋根材は瓦か金属屋根(ガルバリウム鋼板など)、カラーベスト(コロナアル)が多くなっています。



上 瓦にはさまざまな素材があります。この和瓦はいぶし瓦を使用し、棟換気が取り付けられています。瓦のすき間から雨が浸入しても流し桟によって防水紙の上を流す工夫がされています。

左 ガルバリウムを葺いているところ。金属屋根はシャープなデザインで屋根の形も自由にできることからデザイナーは好んで採用する傾向があります。

下 カラーベストの屋根 コロナアルとも言いますが素材が薄いためにスッキリしたデザインになります。



屋根材料

住まいにあって、屋根は雨や雪にさらされ、直射日光や強風など様々な環境に耐えています。時には雹や台風の来襲もあり耐久性が求められます。現在では防火規制や経済性などから使用される材料は瓦や金属板、カラーベストに限られてきています。

雨をしのぐことが一番重要ですから、材料にあわせて屋根の勾配が決められます。瓦だと4/10以上、カラーベストは3.5/10、金属屋根は1.5/10から可能になります。

屋根は住宅のデザインに大きな影響を与えます。屋根の素材と勾配は家の印象を決定づける大切な要素になります。住宅のイメージにあわせて使用する屋根材を決めたいものです。

金属屋根はデザインがしやすく軽い、弱点は雨の音が大きくなりがちながあげられます。カラーベストは軽く、比較的安価で色が豊富なこと、弱点は割れやすく色あせしやすいことがあげられます。和瓦はこの3種のなかで一番高価になりますが、耐久性が優れています。弱点としては重くなることでしょうか。メンテナンスが少なくすむのは瓦です。瓦にも、陶器やいぶしなどさまざまな素材があります。日本の瓦産地でデザイン洋瓦も生産されています。デザインが和瓦や洋瓦であっても材質がコンクリートでできているセメント瓦というものもあります。瓦の場合には素材に注意したいものです。

発行者 ご連絡先
秋葉建設(株) 秋葉 忠夫
〒289-2163 匝瑳市南神崎52-1
電話0479-72-0814 FAX0479-72-0824
Eメール master@woody-akiba.com
HP URL <http://woody-akiba.com/>
ご意見ご感想お待ちしております。